MJ Audio Brand Around

第8回

MJオーディオブランド・アラウンド

アコースティックリヴァイブ

小林 貢 KOBAYASHI Mitsugu

独創的製品を次々に開発

アコースティックリヴァイブは，1996年に石黒謙氏が立ち上げたオーディオアクセサリーブランドである．社名の関口機械販売は建築資材を製作する工作機械の製造メーカーであったという．同社を引き継いだ石黒氏が無類のオーディオスペシャリストであったことから，オーディオアクセサリーの開発・製造・販売に至った．

同ブランドは，設立と同時に発表されたディスク消磁器RD-1が好評を博したことで，アクセサリーブランドとしての地位を確立した．その後に発表されたスピーカースタンドは，航空機グレードのアルミ合金を採用したことで注目された．また地球上に存在するシューマン共振波を発生する超低周波発生器，CD，DVDなどにマイナスイオン処理を施すマイナスイオン発生器など，確実な音質向上効果が得られる独創的な製品を発売し続けてきた．

単線によるオーディオケーブル

そんな同社が大きく注目されたのは，2002年に発表した，6N銅の単線であることのメリットを最大限に生かしたシングルコアシリーズケーブルといえるだろう．これによりケーブル類でも高評価を獲得し，従来以上にシェアを拡大すると同時に海外での評価も高めてきた．このケーブルでは，完璧なシールド性能を実現する銅パイプの投入などでも話題となった．銅パイプは柔軟性に乏しくハンドリングに問題があったが，後にフレキシブルテフロンコーティング銅管を開発・採用し，柔軟性を確保しハンドリングを向上させた．導体は幾度かの改良の後，PCOCC素材にアニール処理を施したPCOCC-A導体を採用，導体の絶縁にはフッ素材を使用してきた．

PCOCC導体が生産終了となり，それに代わる素材として2014年から同社がケーブル類に採用したのが，世界初のオーディオ専用導体PC-TripleCだ．この新導体は，不純物を徹底除去した無酸素銅を鍛造することで導体密度を高め，結晶粒界に方向性を持たせている．この新素材のケーブルにもフレキシブルテフロンコーティング銅管が受け継がれている．また，日本最大のシルクメーカーと共同開発した天然シルクチューブにより，導体周囲に空気層を設けているのも前作から継承された技術である．

同社ではハンダによる音質劣化を防ぐべく，ネジどめ式のRCA&XLRプラグを開発し採用していたが，新シリーズからプラグ内にノイズ除去効果の高いファインメットビーズを投入し，さらなる高音質化を図っている．また電源系では，同社は一般的な編組シールドは隙間があるために高いシールド効果が得られず，しかも撚り線と同じように迷走電流の発生も無視でき

RD-3
ディスク消磁器

RSS-600
アルミ合金
スピーカースタンド

RCA-1.0 tripleC-FM
PC-tripleC
ラインケーブル

RR-777
超低周波発生器

RIO-5Ⅱ
マイナスイオン発生器

XLR-1.0 tripleC-FM
PC-tripleC
バランスラインケーブル